

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	子どもの広場桑名 児童発達支援		
○保護者評価実施期間	2025年11月28日		2025年12月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	2026年1月26日		2026年2月12日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月26日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門性を活かした独自の療育プログラム	「ことだま講座」や「臨床美術」など、外部専門家と連携した多彩なプログラムで個々の発達を支えています。専門的な知見に基づいた的確なフィードバックを共有することで、ご家族が安心感を持って子育てに向き合えるよう、多角的な視点からの支援を大切にしています。	外部講師のアドバイスをスタッフ一人ひとりがしっかりと学び、日々の支援に活かします。チーム全体の視点を高めることで、お子さまの成長をより多角的に捉え、ご家族に寄り添ったきめ細やかな関わりを心がけてまいります。
2	個々のペースに合わせた専門的な個別療育	お子さま一人ひとりの発達段階に合わせ、「楽しい!」と感じられるオーダーメイドの個別療育を行っています。個別療育を専門に担当するスタッフを配置することで、その子ならではの特性を深く理解し、意欲を引き出す丁寧な関わりを実現しています。	常勤の理学療法士(PT)や作業療法士(OT)、そして個別療育の専任スタッフが持つ専門的な視点を共有し、お子さまの「楽しい!」という小さなサインを逃さず、チーム一丸となってその子にぴったりのサポートができるよう、見守る力をさらに高めてまいります。
3	安心感のある環境と透明性の高い情報発信	お子さまが「楽しく安心」して通える温かな環境づくりを大切にしています。事業所の様子をInstagram等で積極的に発信し、ご家庭との連絡にはLINEを活用することで、スピーディーできめ細やかな情報共有を行っています。お子さまの笑顔と、事業所の「見える化」による安心感の両立が当事業所の強みです。	LINEやInstagram等を通じた迅速な情報発信を継続しながら、日々の小さな成長や「できた!」という瞬間をより具体的にお伝えできるよう努めます。保護者様からのご相談やご感想にも丁寧に向き合い、ICTツールを単なる連絡手段ではなく、共に喜び合えるパートナーシップを深める道具として活用してまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域社会との連携・交流機会の欠如	事業所内での療育活動には安定して取り組めていますが、放課後児童クラブや近隣施設といった地域資源との有機的なネットワーク構築については、まだ発展の途上にあります。	お子さまが住み慣れた地域の中でより多様な人々と触れ合い、社会性を広げていけるよう、インクルーシブな環境づくり(地域共生)への働きかけを段階的に強化していきます。
2	安全管理・運営情報の「周知不足」と不透明さ	内部での体制整備(マニュアルや訓練)は進んでいるものの、それがご家族に適切に可視化・共有されていない。情報発信の不足により、運営の適切性や安全性に対する「根拠のある安心感」を提供しきれていない。	「できていること」を正確に分かりやすく発信する広報のあり方を見直します。安全管理や職員体制などの情報を可視化し、ご家族に根拠のある安心感を持っていただけるよう周知の徹底を図ります。
3	ペアレントトレーニングや父母会の未開催、きょうだい児向けイベントの欠如。	現在は個別面談や日々の対話を通じた、一対一のサポートが中心であり、保護者様も現時点では集団活動(父母会等)の必要性を強くは感じておられない状況にあります。	この良好な関係を土台としつつ、ご家族のさらなる安心やリフレッシュに繋がるよう、きょうだい児支援や気軽な情報交換の場など、「プラスアルファの家族支援」のあり方を柔軟に検討していきます。